

子宮頸がんは近年 20 歳代・30 歳代で急激に増えています

❖❖ 子宮頸がん検診を受診される方へ ❖❖

子宮頸がんはウイルス感染が原因です

子宮頸がんの原因は、おもに性交渉によるHPV(ヒトパピローマウイルス)感染です。HPVは、皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスですが、感染しても必ずしも「がん」になるわけではありません。早期発見のため定期的ながん検診が大切です。20歳になったら検診を受けましょう!

次に該当する方は、医療機関で受診しましょう

- 自覚症状がある方
- 妊娠中、または妊娠の可能性がある方
- 性交渉の経験がない方
(医師にご相談下さい。)

症状は?

子宮頸がんは、初期では無症状のことが多く、進行するにつれて月経以外の出血、性交渉の際の出血や普段と違うおりものが増える症状がみられます。

当日持参するもの

- スカート
- くつ下

※検査時は素足となりますので、気になる方(冷え症の方など)は、くつ下があると便利です。

注意 点

- 生理中であっても検査は可能ですが、出血が多い場合は、可能な範囲で別日に受診して下さい。
- 検診後、多少出血する場合がありますが、心配はありません。しばらくすると止まります。出血の量が増えたり、一週間以上続いたりする場合は、念のため医療機関の受診をお勧めします。
- 細胞の状態(過少)によって判定困難な場合があります。

「要精密検査」と判定された方へ

がん検診で精密検査が必要と判定されたのは、「がんを含め何らかの病気の可能性がある」と判断されたということです。

子宮頸がん検診は、がん検診の中で唯一、「異形成」と呼ばれるがんになる前の状態を見つけることができる検診です。異形成は軽度、中等度、高度の3つの段階があり、高度の段階になると、がんに進展する確率が高くなりますので治療対象となります。

精密検査を受けた方の中でがんと診断された方は約64人に1人ですが、高度異形成と診断された方は約12人に1人の割合で見つかっており、この段階から治療を開始すれば、がんと診断された場合と比較して、子宮全摘出をせずに治る可能性が高いため、必ず精密検査を受けることが大切になります。

- 精密検査では、主にHPVの感染の有無・コルポスコープ(膣拡大鏡)での観察・異常が疑われた部位から組織を採取する組織診(検査)を行います。
- 精密検査結果は、当協会と精密検査医療機関で共有しています。
なお、市町村が実施する検診を受けられた方については、精密検査結果を市町村へ報告しています。



当協会のホームページから子宮頸がん検診の詳しい内容をご覧ください。



けんこうリンク
公益財団法人 茨城県総合健診協会